

学校教育目標	未来に向けて輝く峯の子～人との関わりを通して社会に参画し、自分のよさ・自分らしさを発揮できる子を育てます～ 知: 学び合い、高め合い、学び続ける子を育てます 徳: 互いの違いを認め合い、支え合う豊かな心を持った子を育てます 体: 心と体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます 公: 横浜を愛し、「まち」と進んで関わろうとする子を育てます 開: 様々な人とのコミュニケーションを通して未来を切り拓こうとする子を育てます			
	創立 101 周年	学校長 石渡 範子	副校長 田中 力	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 577 人 主な関係校: 宮田中学校 帷子小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	宮田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<コミュニケーション力・発信力>  <自分づくりに関する力>  <社会生活と関わる力>	宮田中学校 峯小学校 帷子小学校	「安定した自己肯定感」と「円滑なコミュニケーション能力」を身に付けた『心身ともにたくましく生きる子ども』  ・宮田中ブロック学校運営協議会を活用し、保護者・地域の意見を取り入れながら「9年間で育てたい資質・能力」を継続して分析する。 ・小中教員による教科・領域に関する情報交換や授業参観、テーマに沿った研究・研修協議会を年3回行い、各校で共有する。 ・児童生徒指導、特別支援教育の情報交換を推進する。

中期取組目標	○子ども主体の授業づくりを推進し、対話的な学びを充実させます。基礎基本の学力の定着を大切にします。 ○子どもたちが互いの個性を認め合い、のびのびと安心して自分らしさを発揮できる環境づくりに努めます。 ○学校と家庭・地域が連携し、子どもたちがよりよく他の人や社会とかかわりあうことのできる力を育みます。 ○組織的な児童指導体制を充実させ、いじめの未然防止・早期発見に努めます。子どもの規範意識の向上を図ります。 ○職員間や家庭・外部機関との連携を強め、子ども一人ひとりの特性に応じた指導を充実させます。 ○教職員が積極的にコミュニケーションをとり、意識を共有できる風通しの良い職場づくりを推進します。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①昨年度に引き続き、重点研究のテーマを「コミュニケーション能力を生かして自己肯定感・自己有用感を高める子どもの育成」と設定し、各学年で具体的な目指す子ども像を考える。②各学年のテーマに沿って自己肯定感、有用感を高めるための手立てを各教科や日常的な取組を通して実践し、報告会を通して全体共有を行う。③児童の実態を把握し、誰もが分かりやすい授業を行う。一人ひとりが自分の考えを伝えたり、友達のを聞いたりする活動を取り入れる。
担当 研究研修部	
徳 道徳・人権・福祉教育	①道徳科において他教科等との関連を図りながら、児童が互いの思いを安心して伝えられる学級風土を作り、学習したことを学校生活の中で実践できるようにする。②人間としての尊厳が守られ安心して学校生活を送ることができるよう、互いによさを認め合い尊重しあうと共に、いかなる偏見や差別も許さない考え方や心情、態度等の人権意識を培い人権感覚を養う。③①、②が日常的に充実して行えるように職員の人権教育の研修を行う。
担当 道徳・環人福地	
体 食育・健康教育	①新体力テストの結果を基に、休み時間に行うことのできる遊びを考え、子どもの体力向上に努める。子どもが運動する楽しさや喜びにふれ、日常生活の中に進んで運動を取り入れることができるようにする。 ②バランスのいい食生活を意識し、自身の健康保持増進に努められるようにする。給食が楽しい体験になるようにしていく。
担当 健康安全	
公開 自分づくり教育	①友達や異学年・異校種交流を行い、力を合わせて活動することを楽しんだり、問題を解決する喜びを味わったりして自己有用感を高める。②自己肯定感や自己有用感を味わうことができる手立てについて、重点研究で取り組む。③教育課程全体で育成を目指す資質・能力において各学年で目指す「自分づくり」の力を明確にし、自分の状況やキャリア形成を見通すことができるようにする。自分自身の変容や成長を自己評価できるよう、「自分づくりパスポート」を活用する。
担当 教科等研究部	
いじめへの対応	①全教職員がいじめについての共通認識をもち、積極的に認知し丁寧な対応を徹底する。②組織として対応していけるように、学年や専任、管理職とこまめに情報共有しながら、継続した丁寧な対応を進める。③いじめ防止委員会で対応状況を共有し、学校全体で再発防止、早期発見、未然防止に努め、いじめ根絶に努める。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①メンター研修の充実に向けて、管理職・主幹教諭などが計画の助言をしたり、講師として参加したりする。②学年主任などミドルリーダーが運営委員会に参加し、学校運営に携わる意識を高められるようにする。③各校務分掌が組織として効果的に業務に取り組むことができているか、教務会で定期的に共通理解できる機会をつくる。
担当 教務会・研修部	
児童指導	①「峯小スタンダード」をもとに、全職員が共通認識のもと児童指導を行えるようにする。②全学年で教科担任制を取り入れ、担任以外の教職員も含め複数の視点で児童を理解し、指導にあたるようにする。③職員会議等で児童の情報交換を行い、適切な児童指導ができるようにする。
担当 児童理解(児童指導)	
特別支援教育	①学校説明会や学校運営協議会などの場で、特別支援教育の方針や学校の現状や支援方法などを伝え、共通理解を図るようにする。②特別支援教室「クローバルーム」や個別の指導計画を活用しながら児童の実態を十分理解し、保護者と連絡を密に取りながら目標を立て指導を行っていく。③インクルーシブ教育を取り入れ、個々の児童の効力的な支援方法について毎月共通理解を図り、全職員で指導に当たる。
担当 児童理解(特別支援)	
地域協働活動	①12月に実施する100周年記念事業に向けて、準備委員会で情報共有しながら学校と地域が協働して活動を進める雰囲気づくりを教務会が中心に進める。②昨年度実施した「学援隊へのお礼の会」など、100周年記念式典に向けて、児童が地域の方々に支えられていることを実感できる機会を意図的に設定する。
担当 教務会	
情報教育	①個別最適な学びを目指し、一人一台端末を効果的に活用した学習を行っていく。②情報教育で育成を目指す資質・能力を明確にし、学年に応じた学習を進める。③学校図書館の計画的な利用や読書活動を行う。
担当 教務部(システム担当)	